

【別紙】

1 日本遺産タイトル

知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島

～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～

2 ストーリーの概要

瀬戸内備讃諸島の花崗岩と石切り技術は長きにわたり日本の建築文化を支えてきた。日本の近代化を象徴する日本銀行本店本館などの西洋建築、また古くは近世城郭の代表である大坂城の石垣など、日本のランドマークとなる建造物が、ここから切り出された石で築かれている。島々には、400年に渡って巨石を切り、加工し、海を通じて運び、石と共に生きてきた人たちの希有な産業文化が息づいている。世紀を越えて石を切り出した丁場は独特の壮観な景観を形成し、船を操り巨石を運んだ民は、富と迷路の様な集落を遺した。今なお、石にまつわる信仰や生活文化、芸能が継承されている。

3 認定内容変更の概要

構成文化財3件の追加、1件の名称変更

内容	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
新規追加	おおいしやま 大石山	未指定 (名勝地)	六島の大石山には、その名のとおり至る所に花崗岩の巨石がある。大正11年(1922)、山の南側中腹、瀬戸内海の東西幹線航路を一望できる場所へ灯台が建てられ、航路の近代化に貢献した。灯台は昭和59年(1984)に改築されたが、大小の船舶が行き交う瀬戸内の、海の道を象徴する景観は、今も変わらない。	岡山県 笠岡市 六島
新規追加	ちとせざ 千歳座	市有形 (建造物)	塩飽水軍の末裔たちは近世以降、廻船や大工の分野で高い技術力を発揮し、塩飽を離れ各地域で活躍した。本島の泊地区にある千歳座は塩飽大工により文久2年(1862)に建設された芝居小屋で、基壇には本島の花崗岩が使用されている。塩飽の繁栄や風俗を物語る貴重な建物として、今も島民らが活用している。	香川県 丸亀市 本島
新規追加	しんぎょうざん 心経山	未指定 (名勝地)	瀬戸内の眺望が良く、巨岩や怪石が露呈する弘法大師ゆかりの霊場。山頂の巨石には神仏が祀られる。心経山の丁場から切り出される花崗岩は「青木石」として知られている。	香川県 丸亀市 広島
名称変更	とのしょうほんまち 土庄本町 ちくまちな 地区の町並み めいろ (迷路のまち)	未指定 (文化的景観)	土庄本町地区にある路地が複雑に入り組む「迷路のまち」は、備讃諸島を代表する歴史的な集落のひとつ。境内から迷路のまちを一望できる西光寺や採石奉行加藤清正ゆかりの屋敷跡も残る。	香川県 土庄町